

国語科 学習活動案

2005年10月 5日（水） 2時間目
児童 6学年 男子22名 女子12名
担任 道下 誠

1. 学習材名 きつねの窓

2. これまでの学習活動

まず、「話すこと・聞くこと」については、一人が自分の考えだけを一方的に話すのではなく、お互いに話し合う力（伝え合う力）を身につけてもらうために、朝の会でのスピーチや授業の中にフリートークの場面を設けて、子ども主体で話し合いを進めていけるような活動を続けてきた。「読むこと」については、教科書の作品を音読するだけでなく、自分が気にいった俳句・川柳の暗唱を行ったり、古典の名作を声に出して読んだり（一音読み・速読・暗唱）するなど、確かな音読によって理解を深めていけるような活動を行ってきた。「書くこと」については、思考力・想像力・表現力を高めるために、いろいろな短作文作りに取り組んできたし、自分の思いを豊かに表現するための川柳作りや、読み手を意識した臨場感のある作文を書くという活動も多く行ってきた。

また、言語事項については、1年分の新出漢字を前倒しで学習してから1年間かけておさらい（復習）をしていくことによって、漢字の定着を図る工夫を行っている。

3. 学習活動で培う基礎基本

この「きつねの窓」という作品は、現実から非現実の想像世界へと話が広がっていくファンタジー作品であり、その中には色彩の美しさやイメージがふくらむような情景表現があふれている。

そこで、本時の学習活動では、自分が心に残ったところや表現方法をもとにしながら、今までの国語の学習活動で培ってきた思考力・想像力・表現力・自分の思いというものをあらかず活動を中心に行いたい。もし、自分にもこんなすてきな「窓」があったとしたら……。このことについて、自分一人ではなくて読み手（聞き手）を意識した、目の前に情景が浮かんでくるような表現で発表できることを目指している。

また、友だちの発表に対しては単なる感想だけではなく、積極的な（主体的な）意見交換をフリートークで行ってお互いに高め合っていくという、コミュニケーション活動も考えている。

4. 学習計画

時 数	学 習 活 動
1	・「きつねの窓」を読んで、心に残ったところや美しいと思った表現や情景を音読し、交流し合う。
2～3	・「子ぎつね」と「ぼく」の会話を中心に音読し、それぞれの心の動きについて話し合う。 ・「窓」に映ったものについて考え、「子ぎつね」と「ぼく」の心の変化をとらえる。
4	・「窓」を失ってしまった「ぼく」の心情を考え、話し合う。 ・自分の「窓」に映るものを考え、情景が浮かぶように表現する。
5 (本時)	・自分の「窓」に映ったものを情景が浮かぶように発表し、お互いに交流し合う。

5. 本時の目標

- ・自分の「窓」に映ったものを、情景が浮かぶように相手に伝える。
- ・友だちの発表を聞いて、それに対する積極的な意見を持って発表する。

6. 学習活動の展開

児童の学習活動・内容・展開	教師の働きかけ
○自分の「窓」を音読する。	
○自分の「窓」について、グループで発表をして交流をする。	相手に伝わるような表現と、積極的な意見交流ができるように。
○だれの「窓」の表現がよかったかを話し合い、グループの代表を決める。	
○自分の「窓」について、全体の場で発表をして交流をする。	聞き手に伝わるような発表と、深まりのある意見交流ができるように。

7. 学習活動の評価

- ・自分の「窓」に映ったものを、情景が浮かぶように相手に伝えることができたか。
- ・友だちの発表を聞いて、それに対する積極的な意見を持って発表することができたか。